

ガンバレ日本! 祭吉連もね

創立40周年 記念誌



沼田祇園囃子保存会 祭吉連

祭吉連40周年祝賀会
式次第

1 開 会

2 挨 拶

3 来賓祝辞

4 鏡 開 き

5 乾 杯

6 締 め

ご 挨拶

～ 沼田祇園ばやし保存会「祭吉連」40周年に際して ～

沼田祇園ばやし保存会 祭吉連
会 長 稲川 悟
実行委員長 鈴木 治善

本日は、大変お忙しい中を祭吉連40周年祝賀会にご出席いただきまして、誠に有難うございます。

沼田祇園まつりの衰退期にあった昭和47年(1972年)に上之町の有志によって設立された祭吉連も、今年で40周年を迎えるに至りました。この間、上之町区を始め、祭吉呑気連の諸先輩方には一方ならぬご厚情並びにご指導、ご鞭撻を賜わり厚く御礼申し上げます。

40年の歴史の中で、私ども現会員が携わってきたのは、ここ十数年の非常に短い期間であるかもしれません。しかしながら、幼児が小学生となり、中学、高校を経て成人し、社会人となって次の世代を着実に築きつつあることは、大変喜ばしいことと感慨無量であります。

祭吉連の目的は上之町のお祭り、布いては沼田のお祭りを伝承し続けることにあります。「お祭りキチガイではなく、お祭りに対してキチガイになる。」この言葉の意味するところ、「お祭りを楽しむだけでなく、お祭りのことを真剣に考える。」ことを念頭に会員相互また祭吉呑気連の諸先輩方も交え、今後とも真剣に議論し合い、時には激論も重ね、より良い我々ながらのお祭りを継承していきたいと思えます。

結びに日頃の祭吉連の活動に対してご理解、ご協力を下さいました皆様方に感謝申し上げますと共に、次代を担う若手諸兄が益々祭吉連を躍進させてくれることを期待いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

平成23年8月2日

祭吉連の発祥

昭和30年代のなかば、沼田祇園祭は終焉を迎えようとしていた。戦後の貧窮の時代は終わり、世はまさに高度経済成長の時代にと変遷していった時である。経済中心の世情は郷土の文化や伝統に冷たい仕打ちを与え、日本中が同じ色でベタ塗りされていくようであった。

関東の荒祭としてその名を轟かせていた当時、山車に乗りお囃子を子守唄に、居眠りをしながら手すりにしがみついていた、あるいは大きな太鼓のバチの袋を首から下げはしゃぎまわっていた、あるいは鼻の頭に白い化粧をしてもらい得意満面であった子供時代を過ごした若者の目に、次の時代にやってきた衰退してゆくお祭りの姿を見ているのは、とてもつらいことだった。

子供の頃の思い出と身体に染みついたお囃子の音色が忘れられず、自らの微力をも省みずに昭和45年、上之町に住む若者数人が立ち上がった。

ここに祭吉連は黎明を迎えたのである。

黎明

昭和45年～昭和46年

代表：須田清七 参加者：割田保之・木下邦夫・
位下総次郎・割田研司

祭の衰退を嘆き「祭吉連」と名乗り、仲間相集い祭に参加した。



連綿

昭和47年～昭和49年

会長：須田清七 事務局：武井てい子

昭和47年1月4日、伝統ある沼田祇園祭を受け継ぎ、次代に伝承することを目的として「上之町祭吉連」と称して発会した。

S47 山車改造

沼田祇園今昔写真展開催、絵馬・手拭い・うちわ・町内飾付けを行った

S48 祭吉連纏新調（東京：面六）、人形新調 {鏡獅子, 後シテ（人形師：師星）}

全国祭写真展開催

S49 山車にせり上げを設置

本町通り歩行者天国になる

昭和50年～昭和51年

会長：須田章夫 総務：割田保之

S50 祭礼功勞により上之町区より感謝状を受ける

囃子太鼓購入 締太鼓3, 大胴1, 鉦2



昭和52年～昭和53年

会長：割田保之 総務：須田清七・位下総次郎

会計：木下邦夫

- S 5 2 山車新造によりお囃子道具一式、
上之町区へ寄贈
第7回「全関東祭ばやしコンクール」参加



昭和54年～昭和55年

会長：木下恵一 総務：秋永幸次 会計：真下美鈴

会計：木下邦夫

- S 5 4 会の名称を「上之町祭吉連」より「沼田祇園囃子保存会祭吉連」とする
「沼田祇園囃子保存会連合会」設立，入会
「阿波踊り・京都大文字焼き」祭礼研修旅行実施（8/14～17）
- S 5 5 「京都祇園祭」祭礼研修旅行実施（7/15～18）

昭和56年～昭和57年

会長：位下総次郎・割田保之 総務：石川初雄

会計：平原美代子



- S 5 6 ダンボール回収事業（4/14～7/21）
「阿波踊り・神戸ポートピア」研修旅行実施
（8/12～15）
創立10周年記念事業
山車人形「小鍛冶」発注（面六）
- S 5 7 山車人形完成、上之町区へ寄贈
山車人形完成祝賀会（7/9）
第三回沼田祇園ばやし競演会優勝（一般の部）

昭和58年～昭和59年

会長：北野智彦 総務：秋永幸次 会計：星野哲男

- S 5 8 上之町区より、人形寄贈に対し感謝状
を受ける（1/7）
「利根沼田伝承古典芸能祭」参加（4/10）
第四回沼田祇園ばやし競演会優勝（一般の部）
- S 5 9 祭吉連が主体となり、上之町の山車、
大銀座祭に参加 小天狗面制作
全国菓子組合より表彰される



昭和60年～昭和61年

会長：鈴木久則 総務：平原功 会計：山田豊

- S 6 0 祭吉連が主体となり、上之町の山車、大銀座祭に参加
- S 6 1 15周年記念事業、山車たる木金具・電動せり上げウインチ、上之町区へ寄贈
15周年記念祝賀会（8/2）

昭和62年～昭和63年

会長：高橋一夫 総務：山田豊 会計：石川初雄

- S 6 2 山車新造10周年記念祝賀会 (8/3)
祭吉連が主体となり、上之町の山車、大銀座祭に参加
- S 6 3 佐賀県「唐津くんち」祭礼研修旅行実施 (11/2～4)

平成元年～平成2年

会長：石川初雄 総務：藤野伸夫 会計：平原功

- H 1 「大阪御堂筋パレード」祭礼研修旅行実施 (10/7～9)
- H 2 「秋田 花輪ばやし」祭礼研修旅行実施 (8/20～22)
大嘗祭参加 (11/23)

平成3年～平成4年

会長：秋永幸次 総務：鈴木治善 会計：須田清七・永沢正次

- H 3 20周年記念祝賀会、お囃子道具を新調し上之町区に寄贈 (8/2)
山車装飾修理 (彫物金箔ならびに狐補修)
- H 4 「博多山笠」祭礼研修旅行実施 (7/14～16)

平成5年～平成6年

会長：山田豊 総務：鈴木治善 会計：中村俊生

- H 5 祭吉紅連発会
本町通り空き店舗対策として、「写真で見る沼田祇園祭今昔」開催 (8/3～5)
- H 6 「長崎くんち」祭礼研修旅行実施 (10/6～8)



平成7年～平成8年

会長：平原功 総務：中村俊生 会計：村澤孝尚

- H 7 独フュッセン市での姉妹都市締結イベントに
会員4名派遣、お囃子を演奏 (9/27～10/4)
- H 8 25周年記念祝賀会
水引幕を上之町区に寄贈
伊ベニスのジャパンウィークに会員6名派遣、
お囃子を演奏する (11/12～11/20)

平成9年～平成10年

会長：藤野伸夫 総務：中村俊生 会計：村澤孝尚

- H 9 祭吉呑気連発会
- H 10 第49回全国植樹祭でお囃子演奏
天覧を賜う (5/10)



平成11年～平成12年

会長：渡辺行哉 総務：村澤孝尚 会計：片山雅章

- H11 祭吉連ホームページ開設
遠州掛塚屋台祭」祭礼研修旅行実施
(10/16～17)
- H12 「京都祇園祭」祭礼研修旅行実施
(7/16～18)



平成13年～平成14年

会長：中村俊生 総務：片山雅章 会計：吉野宗行

- H13 創立30周年を迎える。
山車小屋を天狗プラザに新築
山車修理（屋根，ベアリング，迫り上げ等）
第16回国民文化祭「日本祭囃子フェス
スティバル」沼田市で開催される(11/3～4)
- H14 京都八坂神社にてお囃子奉納(6/1～2)
この年より「小学校伝統芸能教室」が始まる
「半田山車祭」祭礼研修旅行実施(10/5～6)



平成15年～平成16年

会長：鈴木治善 総務：吉野宗行 会計：稲川悟

- H15 祭吉連有志で「神田祭」に参加(5/11)
人形「小鍛冶」衣装新調
股引き反物新調
- H16 第1回「さんてこの響き」
お囃子フェスティバル(熊谷市)に参加
沼田祇園ばやし連合会25周年
シェイプアップガールズの中島史恵さん
がお囃子練習に参加する。(8/2)



平成17年～平成18年

会長：村澤孝尚 総務：稲川悟 会計：須田隆太

- H17 石塚英彦さん来会. 山車の上でお囃子を演奏
(6/7)
北海道「YOSAKOI ソーラン祭」祭礼研修旅行実施
(6/8～9)
- H18 創立35周年記念祝賀会
(8/2)
記念事業として山車緞帳
幕を修理



平成19年～平成20年

会長：稲川悟 総務：須田隆太 会計：木下大輔

- H19 上之町が「沼田祇園囃子競演会」で9年ぶり4回目の優勝。
優勝メンバーを引率し、独フュッセン市に親善大使として派遣される。
(10/13～19)



- H20 小倉優子率いる「サザエオールスターズ」が上之町商店街に・・・
メンバーの前で子供達がお囃子を演奏
沼田市内も早朝から大混雑。(1/18)

平成21年～平成22年

会長：村澤孝尚 総務：木下大輔 会計：小熊政則

- H21 市街地再開発のため、8年ぶりに神社境内の山車小屋へ戻る

H22 沼田市合併5周年記念事業にて上之町の子供達がお囃子を演奏する(2/13)
上之町の子供達、第12回「全国こども民族芸能大会」に出場する(8/21～22)



平成23年～

会長：稲川悟 総務：木下大輔 会計：須田隆太

- H23 創立40周年祝賀会

思い出

「テレスクと 始まる祭 永久に」

初代会長 須田 清七

おぎょんは天正18年1590年に牛頭天王宮が祀られた時に始まったと伝えられ、それから420年余の歳月が流れ、さまざまな事がありながらも継承されてきました。

それは、真田の町づくりに始まり、須賀神社の移転、城主の交代、明治維新、神仏分離令、廃仏毀釈、そして大恐慌、戦争と歴史の変遷と共に浮き沈みを繰り返し続けられてきました。

おぎょんが近年において停滞していた歴史は、今から約50年前、経済至上主義の時代背景のなか神社神輿の大暴れに始まり、伝統文化や伝承芸能よりも時代の先取り、新しい物を求める風潮のなか、神社神輿も山車も出ないお祭が続いていました。

祭吉連はその停滞期の真っ直中、40年前の昭和45年にその活動を始め、営々として今日まで続けられて来ました。そして現在の「おぎょん」の繁栄の礎を成したのは祭吉連であると言っても過言ではありません。

祭吉連を人の人生にたとえるなら、人生2回目の節目、厄年を迎えたこととなり、設立当初「みんなでお祭に参加して、お祭を復興しよう」から「より質の高いお祭をめざそう」そして「対外的に名前の通ったお祭に」とその思いは変化しながら続けられて来ました。

今、祭吉連を思う時、上之町は、本町通りは、沼田の中心市街地は存続の危機を迎えており、このような状況の中、頑張っている会員諸君の奮闘に敬意と感謝を捧げます。

そして今、沼田のお祭り「おぎょん」はまた、停滞期を迎えようとしています。それは繰り返される歴史の流れであり、とどまることのない人々の思いの変遷であります。

また再び、お祭の危機を迎えても、祭吉連から始まった思いは、次の時代の人々に引き継がれ、その時代の祭吉連が新たな牽引者となるであろうと確信しています。

なぜなら、私達に「おぎょんが大好き」「沼田が大好き」の遺伝子が組み込まれているからです。

おぎょん四百数十年の歴史の中の40年、祭吉連栄光の歴史を賞賛し、祭吉連の心は永久に不滅であれと念じ上げ、今日までご支援を頂いた多くの皆様様に心より感謝とお礼を申し上げます。



「平成元年の祭吉連会長としての思い出」

第9代会長 石川 初雄

昭和天皇が病状に伏し、全国のお祭りが自粛される中、崩御され元号が昭和から平成と発表された翌日に会長をお引き受けさせて頂きました。全国の祭礼も再開し、ぬまた祇園祭りは例年通りに開催されたのです。

この年の祭礼研修旅行は、十月開催の大阪御堂筋パレード参加のお手伝いでした。天狗御輿を二基運搬し御堂筋にて一基の御輿に組み上げて巡行したのですが、広い道路に沼田からの大勢の担ぎ手が行き、地元の方と合同で堂々の巡行を行い観客からの拍手喝采を受けました。翌、平成二年元旦は例年通り須賀神社での初詣ですが、祭吉連として我家から臼と杵を持ち込んで、餅つきを行いました。しかし大晦日から三十センチの大雪で人出が心配されましたが、初詣客も出て、ついた餅もすぐに無くなりました。この年のぬまた祇園祭りも例年通り開催されましたが、今思うと二十年前ですから、皆浴びるほど良く酒を飲んで元気に祭りを行ったものです。

お盆明けの八月二十日に祭礼研修に出発し秋田県鹿角市の花輪ばやしに参加すべく大型バス二台に分乗し大人数で出かけました。参加者は地元の三町内に別れて祭りに参加し、花輪の格式と伝統有る行事を研修させて頂きました。睡魔と戦い、朝まで演奏する中学生の「霧ばやし」が印象的でした。最後に花輪独特の祭りの手締め儀式、サンサを神社にて共に行うと、しきたりで四十二歳で引退する若者会の人々が男泣きに成ったのが印象的でした。十一月は須賀神社境内にて大嘗祭参加として氏子町内の山車を揃えお囃子を行って今上天皇の即位への奉納を行いました。結びにあたり、平成二十三年の選挙に於いて、市議会議員に当選させて頂きました。祭吉連及び、祭吉のんき連の各位に衷心より御礼を申し上げますと共に十年後の五十周年の時も一献酌み交わす事を祈念致します。



「30周年の思い出」

第15代会長 中村 俊生

10年前、30周年の時に会長をさせて頂きました。記念事業を何にするか、皆で知恵を出しあいました。

「人数が少なくなって山車を動かすのが大変だから、ベアリングを入れよう」ということになりました。10年後こんなに山車が重くなるとは思いませんでした。

「国民文化祭もあるので、天狗プラザに山車小屋を造ろう」ということになりました。10年後また須賀神社に戻っているとは思いませんでした。

「諸先輩に頼らずにお囃子をしよう」ということで、笛の練習を一所懸命しました。これは一定の成果を上げ、次の世代につなげることが出来ました。

「子供の半天を変えたかったなあ」と心の中で思ったのですが、次の執行部が実行してくれました。お囃子練習をして会議をして、お酒を飲んで、「待つのが祭り」を実感する日々でした。ただ、妻からは当然のことながら、ただお酒を飲んで遊んでいるようにしか見えないので、実際にそうなので、随分恨まれました。

「祝 祭吉連40周年」

第17代・19代会長 村澤孝尚

私が祭吉連に入会してから早いもので20数年が経ちました。当時の祭吉連は会員数も多く、創設から携わってきた上之町を代表する元気な先輩たちが中心となり、それは賑やかなものでした。

祭の期間はもちろんのこと、1年を通して祭にかこつけては酒を飲み、祭の話になれば喧嘩が起こり、祭の準備や後片付けでは、作業をしても遠くの方から呼ばれて別の用事を言いつけられ、作業での動きが悪いとよく怒られたものです。我々若い者はついて行くのが精一杯でした。そんな祭吉連でしたが、先輩たちは祭のことになると目が輝き、私もずいぶん厳しい言葉をいわれましたが厳しい中にも暖かさを感じました。そして心底、祭を楽しんでいる姿を見て私は育ちました。

平成9年には祭吉連の礎を築いてくださった多くの先輩たちが祭吉呑気連を発足し祭吉連を卒業。そして、私個人的にも大変お世話になった、山ちゃん（故 山口芳保さん）や、北野の智ちゃん（故 北野智彦さん） 鈴木の電気屋さん（故 鈴木久則さん） 秋永の幸ちゃん（故 秋永幸次さん）が故人となりました。それは、とても寂しく時代の移り変わりを感じると同時に、先輩たちが築いてきた伝統を守る責任の重さを感じたのも事実であります。

今、祭吉連は18人と少人数で活動していますが、幸いにも祭好きの血の通った二世会員が次々と入会し、祭吉連の活動に共感してくれる町内以外の若者が活躍してくれています。そして、祭吉呑気連の先輩たちの存在も我々の大きな力になっています。

祭吉連40周年を迎えた今、設立当初から受け継がれてきた伝統をしっかりと守り、地域の宝物でもある子供たちにお祭の楽しさやお囃子の素晴らしさを伝えていくことこそ我々の使命だと思います。会員一人ひとりが祭吉連という看板を背負い、情熱をもって活動をしていけば必ず伝統は受け継がれるでしょう。



